

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	2775502442
法人名	社会福祉法人 高安福祉会
事業所名	グループホームしぎのさと
所在地	八尾市服部川5-7-1 (電話) 072-941-9982
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 5月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤10人, 非常勤7人, 常勤換算	4.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有() 円 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	150円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	信貴の里内診療所、浅井クリニック、山本歯科
---------	-----------------------

作成日 平成20年4月4日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『しぎのさと』と刻んだ立派な庭石が木立の中に置かれ、石灯笼や大きな樹木がある日本庭園風の一隅もあります。広大な敷地は、隣接した母体法人の特養やデイサービスセンターに続いており自然にも恵まれています。2階・3階へと外部階段を上がると木製の格子戸のホーム玄関があります。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、日常生活の中で利用者に教えてもらうという姿勢を持ち、一緒に庭の一角に野菜を植えたり花を育てたりしています。計画作成担当者のひとは『認知症介護指導者研修』を受け、利用者本位の『パーソンセンタードケア(人格尊重の認知症ケア)』を学び、ケアの場面で実践をし、1年を経て職員にもその意義が浸透してきたと感じています。職員層は60代・50代の方も含め幅があり、年代相応の対応で「急がせず」「できることをしてもらう」「優しい声かけをする」など、認知症の人を傷つけないようにサポートをしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	改善課題についてはフロア会議で話し合い改善しています。食堂には見やすいカレンダーを設置し、廊下壁面には行事の写真や利用者の作品(大人のぬり絵等)を掲示してあり、生活の様子が伺えます。居室は個人差がありますが、馴染みの物の持ち込みも見られました。個人別の小口金銭出納帳が作られ、家族に確認してもらっています。しかし、ホーム入口の『グループホームしぎのさと』の表示はまだなく判りにくいままです。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が話し合い、意見交換しながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に開催しています。市の担当者・在宅介護支援センター職員・地域の代表・家族・利用者参加のもと開催しています。ホームの運営状況、行事報告、利用者の生活ぶり、職員の外部研修報告等の説明を行い、地域交流を深める方法についても話し合っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に近況報告や新しい職員の紹介を行っています。健康や安全に関わる事項については必要の都度電話で家族に報告しています。小口の金銭出納帳は毎月確認印を得ています。苦情受付の窓口を設け、家族からの要望・意見を聴き取るよう声をかけています。また意見箱も設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として自治会に入会しています。地域の民生委員・高齢クラブとの交流・ボランティアを受け入れています。隣接の特養の夏祭りや催し物を地域の掲示板に掲示し、地域の方と共に参加しています。小学校の運動会に招待されたり、中学生のマラソンの応援もしたりします。食材を毎日購入するスーパーの店員や米屋との交流もあります。地域の方から採れたての野菜を戴くこともあります。職員は地域交流の拠点になりたいと考えています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念に、『楽しく過ごしましょう。365日笑顔で過ごしましょう』と掲げられていますが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっていません。	○	職員は「地域との交流を持ち地域の拠点になりたい」と考えています。地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念作成が求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	信貴の里のスローガンの「初心を忘れず思いやりの気持ちを大切にします。いつも笑顔で挨拶します。常に尊敬の念を持ち介護させていただきます。自立支援（身体的、精神的）を目指します。」を事務所内に掲示し、毎朝、朝礼時に唱和し、ホームの理念を日々の生活の中で実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	法人として自治会に入会しています。地域の民生委員・高齢クラブとの交流、ボランティアを受け入れています。隣接特養の夏祭りには地域の方と参加しています。小学校の運動会に招待され、利用者と観に行くこともあります。中学生のマラソンの応援もします。毎日の食材を購入するスーパーの店員や配達してもらう米屋との交流もあります。地域の方から採れた野菜を頂く事もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項については、フロア会議等で話し合い改善しています。評価結果は家族にも閲覧できるよう提示しています。自己評価は、管理者と職員が話し合い、意見交換しながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市の担当者、在宅介護支援センター職員、地域の代表、利用者、家族の参加のもと、概ね2ヶ月毎に開催していますが、感染症のために開くことができなかった月もありました。会議ではホームの運営状況、行事報告、利用者の生活ぶり、職員の外部研修への参加状況等の説明を行い、地域との交流を深める方法について話し合っています。運営推進会議の規定はまだ作成されていません	○	運営推進会議を勧めるルール（目的・構成）を定めた規定を作成し、それに基づいた会議の運営が求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加してもらい助言を受けています。自己評価・外部評価結果は報告しています。管理者は市の保健福祉部高齢介護基盤推進プロジェクトチームに参加しています。常に連絡を密に取り、サービスの向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の近況報告や新人職員の紹介などを報告し、個別の小口金銭出納簿に毎月確認印・サインを得ています。定期的な『たより』等は発送していません。 行事などの写真を廊下の壁面に掲示していません。健康状態に変化があった場合や事故報告、ヒヤリ・ハット等は電話で報告し、内容は毎日の生活記録に記載しています。受診・服薬等の対応について家族に電話連絡をした場合には、生活記録だけでなく、『伝言帳』等を作成し、必要に応じて家族に再報告することが望まれます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者や訪問された家族から要望・意見を聞き取るよう声をかけています。苦情受付窓口を設けています。公的機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載し説明しており、また玄関にも掲示しています。1階エレベーター前にご意見箱を設置し、苦情があれば協議・検討し即時に対応しています。運営推進会議には利用者・家族の代表も参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心がけています。職員の交替時には利用者に紹介し、訪問時の家族にも紹介しています。『便り』の発行がないため、職員の異動については、掲示コーナーを利用し新しい職員の写真を掲示する等、家族への更なる周知徹底が望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の事業所内で毎月勉強会を開催しています。月3回同じ内容の研修があり、全職員が参加できるようにしています。『緊急時対応』『認知症』『感染症』の研修も含まれています。外部研修にも参加しています。今後は、研修資料を提示し全職員に伝達することが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会・大阪認知症高齢者グループホーム協議会に参加し、情報交換を行いサービスの質の向上につなげています。また、向かいで開設している他の事業所のグループホームと情報交換をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用時には自宅で使っていた馴染みの物を持参しています。また、利用当初の日中はホームで過ごし、夜は自宅に戻るという方法を取り、ホームの生活に徐々に馴染めるよう工夫する等、家族の意向も尊重しています。利用当初は、職員が傍について他の利用者との良い関係が築けるようサポートしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、日常生活の中で利用者に教えてもらうことがあり、菜園での収穫や調理のだしの取り方など、一緒に作業しながら生活の知恵等を学ぶ姿勢を心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、把握に努めています。利用者一人ひとりの生活歴や趣味、好みや希望等の情報を記録しています。利用当初や訪問時に家族からも情報を得るようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	大阪認知症高齢者グループホーム協議会書式のアセスメントシートを活用しています。月に一度ケアカンファレンスを行い、家族の意見も取り入れて、介護職員と計画作成担当者が共に介護計画を作成しています。利用者や家族から同意のサインを得ています。	○	作成された介護計画書は、非常勤職員やパート職員を含め職員全員が確認したことを印し、把握・共有することが求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月に1回見直すことになっていますが、実際には毎月のモニタリング結果をカンファレンスで討議検討され、見直しを行っています。身体状態の変化や介護度の変更時にも介護計画の見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院との連携や併設施設の看護師の協力により医療連携体制を取り、利用者の状態に応じて必要な看護を行っています。利用者の状態により、職員の応援が必要な時は、併設施設より協力が得られます。音楽療法・歌ボランティアの受け入れにより、利用者に喜ばれるサービスを提供しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は併設診療所の医師の診察を受けていますが、利用者や家族の希望により、以前からのかかりつけ医（医療機関）へ家族が連れて行き、診察を受けている利用者もいます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同じ敷地内の併設施設には看護師が常駐しており、利用者の終末までホームで過ごしたいという希望に対しては状況により、家族・主治医・看護師とも話し合い対応しています。ターミナルの同意書も交わしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて、入職時に職員には書面で周知徹底しています。勉強会などで職員の意識向上を図っています。日々のかかわりの中でも、利用者を尊重しプライバシーを損ねない対応を心がけています。利用者の個人情報に関する書類については、鍵付きの棚に保管しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をし、利用者一人ひとりに合わせた支援をしています。夜間居室のドアを閉めることを好む利用者には、家族の了解を得て本人が内側から戸締りをしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付けなど利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を楽しめる雰囲気作りを大切にしています。訪問時にはホットプレートを囲んで会話を楽しみながら焼きソバを皆さんで焼いていました。メニューは利用者の希望を取りいれ決めています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の午後から大きな浴槽にゆっくり入浴することができます。ひとりで家庭浴槽に入ることを好む利用者もいます。夏場は希望すれば曜日に関係なくシャワー浴ができます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや、ベランダのプランターや畑の水やり、食事の手伝いや買い物など利用者に役割があり、散歩や、カラオケ、ぬり絵など、趣味を活かした支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材は、利用者も一緒に近くのスーパーへ車で行っています。散歩は、併設施設の屋上や近くの身障者施設等へ行っています。近所の方とも顔なじみになり、挨拶を交わしています。外食にも出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の無断外出の危険性についても、鍵を掛けることによる弊害を理解しており、行動のパターンや精神状態の把握を行うことで対応しています。ただし入浴時間帯(2時間)は見守り不足のため閉錠しています。今後は常に開錠できる取り組みが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、年2回避難訓練を実施しています。しかし食料と水の備蓄については併設施設で準備しており、ホーム独自ではほとんど準備されていませんでした。	○	非常・災害時のための食料品と水の備蓄については、ホーム独自で備蓄をすることが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量については記録し、1日の摂取量を把握しています。栄養バランスを考え利用者と一緒に食事をとりながら、食べたい物などのリクエストを聞いています。1ヶ月の献立表を作り母体法人の管理栄養士がチェックしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	回廊式ベランダに面した明るく広い食堂と、リビングに隣接して一段高くした和室には堀こたつもあり、ゆっくり寛ぐことができます。居室への廊下には柱と柱の間に三人掛けのベンチ（畳み敷き）が作りつけで設置してあります。柱により人目を避けることができ、ゆっくりできます。廊下の壁面には利用者の生活の様子が判る写真を掲示してあります。採光や音量など違和感なく寛げる共用空間です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が入居する際は本人の馴染みの物を持参しています。長年使い馴れた布団や仏壇の他にご主人の遺影や家族の写真やテーブルもあります。ベッドの他にくつろげるソファも置いています。		